

泰明小学校3年生、井上凱生君、倉敷王将戦低学年の部で全国準優勝。



高学年 64 名、低学年 64 年の県代表が各 8 ブロック x 8 人で 4 勝者のみが準決勝トーナメントに進出 井上君 4-0、重田君惜しくも 3-1



低学年の部決勝 井上君 対 小幡君 (千葉八千代小 3 年) スクリーンで棋譜が観られた。



朝、重田君と倉敷芸文館入り口で 帰り、準優勝賞状も持つ井上君と

重田和樹君は立教小学校 2 年の時から、井上凱生君は築地保育園年長組の時から、中央区将棋同好会親子将棋教室の上級クラスに通ってくれた。3-4 年が経ち、あっという間に強くなった 2 人は今回、大山名人杯争奪全国小学生倉敷王将戦の高学年で立教小学校 6 年の重田君、低学年で泰明小学校 3 年の井上君がダブルで東京都代表になり、応援に出かけた。

予選は写真の様に壇上で様子しか判らないのですが、相手が駒台に手を置き投了の仕草をする度に、二人が客席に戻ってきて、ご家族と喜びのハグをする微笑ましい光景が続きました。重田君は鬼ブロックに当たったと聞こえていましたが、4 戦目残念ながら敗退となりました。

井上君は予選から準決勝まで 6 人の県代表に勝ち、決勝に進みました。最初に対戦表が貼り出された時、小幡君のお母さんが「井上君とは早く当たらないので良かった」過去 4 回対戦があり、2-2 最近では井上君が 2 勝していると、結局この二人の決勝になったのです。小幡君が先手四間飛車、井上君が薄い王の囲いのまま仕掛けましたが、受けを誤り、責め倒されました。私には対井上対策の戦法だったような印象を受けました。二人は今後もライバルとして研鑽し合い大きな飛躍へと向かうのでしょうか。

大山名人には 20 才の時に学生名人記念飛車落対局でボロボロに負け、その時の教え「兼任では道は極められない」に従って今、独立して研究を続けていることを報告し、倉敷を後にしました。

指導員 高村善雄